



平成30年度「不登校を考える学習会」(第1回目)を行いました。

演題：大人が子どもに残せること

C&S音楽学院 学院長 毛利直之さん

平成30(2018)年6月30(土):小郡市人権教育啓発センター

不登校の当事者・経験者・保護者、区長、民生児童委員、学校関係者、行政職員など参加者36人で学習会を行いました。毛利さんは、「C&S音楽学院には、いじめや大人からの心無い言動などが原因で学校や社会、時には家庭にも居場所がなくなり通ってくる子がいる。その子たちの多くは、豊かな個性や感受性をもっている。長い長い人生のほんの一時期学校に行かなかったくらいで、自己否定する必要はない。変わるべきは大人であり、何が大切で、何が間違っているのかということを大人の姿で示す必要がある。」と話されました。また、自分は大切な存在であるという自尊心を高めていく必要性も話されました。

途中、音楽学院生徒の松原 亜衣さんが、歌の披露と不登校に至った経緯や今の思いを話してくれました。「みんなひとつくらいは頑張っていることがある。結果というより目標に向けて頑張る過程を大事にしたい。大人は、やさしく見守ってほしい。わたしは今を頑張って生きて、社会に出ていきたい。」という言葉が印象的でした。

最後に、「もう一度、感謝することからはじめませんか。忘れかけていた言葉『生まれてきてくれてありがとう』」という言葉伝えてもらいました。

後半は、参加者で輪になって、講演会で印象に残ったことや今の状況や悩みを率直に出し合い交流をはかりました。

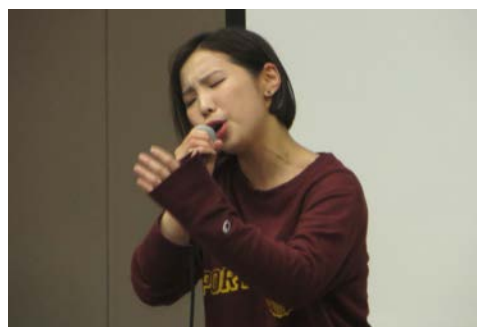
《参加者のアンケートより》



子どもには、結果をどうしても求めてしまって「できないのはなぜ？」と態度や言葉でせめているんだと反省しました。「気持ちを持ってあげられる」これは、母としての今後の目標です。



【講演中の 毛利 直之 さん】



【歌唱中の 松原 亜衣 さん】



講演後は、毛利さんと松原さんを囲んでおしゃべり会をしました。

